

「戦争法（安保法制）の廃止の国民連合政府」の実現を！

日本共産党は19日、「戦争法（安保法制）廃止の国民連合政府」の実現をよびかけました。

戦争法案反対運動のなかで「法案は許せない」「安倍政権打倒」とともに、「そのため野党はまとまってほしい」との強い願いにこたえるための大胆な方針提起です。

与党は、「国民はどうせ理解できない」「すぐに忘れる」「連休を挟めば落ち着く」などと思っていたら大間違いです。

国民の願いを受け止め

志位委員長は、
（1）戦争法廃止、安倍政権打倒のたたかいをさらに発展させよう
（2）戦争法廃止で一致する政党・団体・個人が共同して国民連合政府をつくらう
（3）国民連合政府で一致する野党が、国政選挙で選挙協力を行おう—というものです。

この提案は、なによりも戦争法廃止を求める国民の熱い願いに正面からこたえた内容です。



この惨劇を決して忘れない！（9月17日 戦争法案の参議院・委員会での強行採決。もみ合っている議員の過半数は与党議員。何の採決をしたのかさっぱりわからず）

日本の平和と国民の命までも危険にさらす戦争法を一刻も早く廃止したいと、法律成立直後から、国民は自発的・自覚的に声をあげ続けています。「学者の会」、「ママの会」などが戦争法廃止の運動を継続する声明を発表したのをはじめ、多数の団体・個人がたたかう立場を続々と発信しています。

「閣議決定」の撤回まで実行する

戦争法廃止のためには、廃止に賛成する政治勢力が国会の議席で多数を占めて国会で廃止の議決を行うことが不可欠です。

しかし、それだけで問題は解決しません。昨年7月に集団的自衛権行使を容認するために安倍政権が憲法解釈を勝手にゆがめた「閣議決定」が火種として残るからです。

この「閣議決定」を撤回させなければ、憲法9条を形骸化させた立憲主義違反の異常事態は続きます。

そのためにも「閣議決定」の撤回まで実行できる政府をつくるこ

私の昭和 ①

鈴木重雄（八色木）

大正の時代も終わり昭和となった2年に私は生まれた。旧藤島町では465名（「藤島町遺族会追悼集」が戦陣に散った。私の生きて来た昭和は光と影に分かれた時代である。

戦後は復興と繁栄という明るい色調が目立つが、その豊かさは多くの犠牲の上に築かれたことを決して忘れてはならない。

日清戦争（1894年）から太平洋戦争終戦（1945年）までのほぼ50年は、日露戦争、日中戦争、第一次世界大戦、太平洋戦争とまさに戦争で明け暮れであった。太平洋戦争だけでも

とがどうしても必要となります。

憲法学者の長谷部恭男氏も「閣議決定を『間違っていた』と、元に戻してもらわないといけない」と政権打倒の必要性を説いています。

世論・運動の後押しこそ

この提案が実現できるかどうかは、世論と運動の広がりにかかっています。

「違憲立法は廃止しよう」「立憲主義、民主主義を取り戻そう」の声を「それを実行する政府をつくらう」へと発展させることです。

安倍政権のもとで、日本国憲法と日本の平和がかつてない危機にさらされているいまこそ、全国に呼応し、次の選挙でこの地域からも共同をすすめていきましょう。

外交力を置き忘れた「戦争抑止力」 アベ政治は北東アジアに 不幸を呼ぶのでは！

(新町 齋藤留治)

鶴岡の「まちキネ」で上映されている「日本のいちばん長い日」という映画を見て、太平洋戦争末期の軍部や保身にたける要人達の醜さを見せつけられた。

早く戦争を終わらせないと日本は全滅してしまうという危機感から、終戦の為に尽くした鈴木貫太郎総理大臣の存在が無ければ日本は滅びたかも、とも思えた。

しかし、その尽力は国民の命より天皇を元首とする国体維持の為にあったというが。

アジアの人々を欧米の支配から解放するためと主張するナシヨナリスト達にもこの映画を観て欲しいと思いましたが。(半藤一利著「聖断」も合わせて)

原作者の半藤一利さんはジャーナリストとしてアジア太平洋戦争をテーマにして執筆活動を続けられたようですが、随分と嫌がらせや脅迫を受けたようでした。

戦後70年経っても旧満州の人達はアベ晋三氏の祖父・岸信介氏等によって罪も無い家族を殺された恨みを持っていてる方が多いと記事で読んだ事があります。
軽薄な言動

が多いと言われるアベ晋三氏の言う「戦争抑止力」や「美しい国」とはどんな国の事を指すのだろうか。

私が数カ月前お世話になったバンクーバーの白人夫婦は言っていました。

「アメリカ本土は戦場になった事は無い。他国を攻撃しているばかりだから自分達はアメリカをあまり好きではない。」と。

憲法より総理大臣の言う事の方が正しいと強弁する人がリーダーの国が果たして「美しい国」と言えるのだろうかと疑問に思われなりません。

戦争法（安保法制）廃止の一点 で野党のさらなる結束・共同を 共産党、廃止の一点で野党選 挙協力を提案

—「しんぶん赤旗」を読んで 青山崇

国民一人ひとりが自覚的・自発的に声をあげ、とりわけ若者やママさんたちを含む新しい国民運動が広がり、

酒田市郷土史研究会(会長 堀 健悦)
藤島の歴史・文化
研修視察
藤島郷土サークル
員が案内

2019日)、標記研修視察に來られ、旧東田川郡役所・同郡会議事堂、藤島城址、六所神社、鷺畑山古墳群、萬歳碑、十文字開発記念樹を18人が訪ねました。

会員の阿部公彦・青山崇・太田榮市・斎藤忠雄さんがそれぞれ案内・説明しました。

このよつな藤島全域の研修視察は希なことであり、東田川文化記念館が準備された研修資料も好評で満足して帰られたよつでした。

可決されても敗北感がなく、むしろ「ここから始まりだ」と意気軒高である。また民主党を始めとする野党5党の結束も強かった。

95人から一人選ばれ、中央公聴会で公述した奥田愛基さんは「連休を挟んだら忘れるとか、そんな怒りじゃないですよ。悲壮感なんて全然ない。言うことは一つ、賛成議員は落選させよう」と訴え、「野党がそれぞれの考えが

あるのはわかる。でも安倍政権を倒すという一点での共闘をくずさないでほしい。」という国民の声も強い。これらの状況を受け、共産党は可決された19日午後、すぐに中央委員会総会を開き「戦争法（安保法制）廃止の暫定的な国民連立政府の実現のよびかけを決定し志位委員長が発表し、安倍に傾斜するNHKニュースも20日朝報じた。

提案のまず始めは、



我が家のマイナンバー

1〜98というのが我が家のナンバーです。が思ったが、現在は使われていませんでした。上町の98がマイナンバーだったんですよ。合併まではこの番号。

その頃は 役場だけでなくどこでも使っていたから正にマイナンバーというものだった。しかし、そんな時代に「大事に保管しなさいよ」と来た番号があったことを思い出した。

それは長押（なげし）で変色していたが、平成14年8月5日付けの住民基本台帳ネットワークシステムのものであった。11桁の数字だったが俺はこれを使った記憶はない。皆さんも同じでしょう。この通知書は1〜98で来たが、国はこれを何に使ったんだか知らされていない。恐ろしいぜ。金もかかったろうに。

▲そこで思い出したの

戦争法廃止・安倍内閣打倒のたたかいをさらに発展させること。2つは戦争法廃止の一点で一致する政党・団体・個人が共同して国民連合政府をつくること、この政府は暫定的なもので、廃止が実現したその先は、解散・総選挙で国民の審判を仰ぐこと。3つは連合政府樹立のために、沖縄選挙のように、一致する野党が選挙協力することである。

が 福島のとっかの町が何に使われるかわからないから参加しないってことを、マスコミが取り上げたんだってなア。今度のは地方自治体がそんなわけにもいかないよつですヨ

▲誰も欲しくないのにマイナンバーと呼んで押し付けるんだ。今度は12桁なんだと。誰か覚えていられるものですか。未だ使ってもいないのに法律改正で、使用範囲を俺たちには悪く変えたようだぜ。

▲来月には通知が来て一月から使うと言って、今から個人情報洩れることと、それによる悪用が心配されているんだ。しかし、社会保険が関係してくるから、給料をいただいてる皆さんと家族は、心配があっても新年から使うんだなア。▲それまでシステム変更ができるか、混乱は必至ということか。

(石川)